

新潟市 財産経営 推進計画 NEWS

ニュースレター#1 地域の公共施設のこれからを 考えるワークショップが開催！

新潟市では、平成27年7月に、「財産経営推進計画」が策定されました。

この計画は、将来想定される少子超高齢化社会や厳しい財政状況に対応し、将来世代に過度な負担を強いることのないよう、市有財産の効率的な管理・利活用を図っていくための方針を定めたものとなっています。

この計画では、今後、地域の身近な公共施設については、地域の皆さんと市・区役所が協働で、そのあり方について検討することと定められています。

潟東中学校区では、小学校統合が予定されていることから、これを契機として、地域の公共施設のありかたとともに、小学校跡地の活用などについて、地域のみなさんと市・区役所がともに考えるワークショップが開催されています。

潟東地域でワークショップを開催しています

潟東地域において、第1回目となる「地域の公共施設のこれからを考えるワークショップ」が8月30日（日）、潟東地区公民館にて開催されました。29名の参加者を得て、活発な意見交換が行われました。

まず、新潟市から公共施設に関する現状について説明があり、その後、7～8名ずつに分かれてグループ討議を行いました。グループ討議では、本ワークショップと検討プロセスの趣旨を把握した上で、地域の現状や公共施設を取り巻く課題について、幅広く意見を交換しました。最後に、各グループでの討議内容を発表しあい、参加者全員で情報を共有し、3時間にわたるワークショップを終えました。



第1回ワークショップの様子

「ワークショップ」とは



参加者が意見やアイデアを出し合い、話し合いをしながらその成果をまとめあげていく検討方法をいいます。参加者はいくつかのグループに分かれ、専門のファシリテーター（司会役）の進行で、話し合いを進めます。

また、役職や年齢等にかかわらず、平等・対等な立場で意見交換を行います。

「地域の公共施設のこれからを考えるワークショップ」
（潟東公共施設ワークショップ）

本ワークショップの参加者は、潟東中学校区においてコミュニティ活動をしている人や、公共施設利用団体・地域活動団体の代表、地域内の学校のPTAのほか、公募によるメンバーで構成されています。

平成28年3月までに、5回程度の開催を予定しています。

地域の公共施設のこれからについて考えてみませんか？

◇ ワークショップの位置づけ

7月に策定された「財産経営推進計画（公共施設マネジメント編）」では、中学校区を基本単位とした地域ごとに、地域の皆さんと協働で、身近な施設の最適化に向け、将来のあり方を示す「地域別の実行計画」を策定するとしています。ワークショップは、この実行計画を策定するにあたり、市と地域の方との協働を実現するための重要な機会のひとつです。

◇ 開催に当たっての基本的な考え方

本ワークショップは、地域の皆さんが新潟市と共に公共施設の将来のあり方を考えていくことを目的とするもので、単に「賛成」や「反対」を聞くのではなく、「地域の将来をどう考えるのか？なぜそう考えるのか？」という「関心事」に注目して、意見が収集されます。また、本ワークショップにご参加いただけなかった方とのコミュニケーションは、オープンハウス等を通じて図り、地域の将来のあり方を多くの方とともに模索していくことを考えています。

◇ 「地域別実行計画」の検討の進め方

新潟市は、ワークショップなどで得られた成果をもとに以下のステップに分けて検討を行い、「地域別の実行計画」を策定します。計画の策定については、地域の皆さんの意見が尊重され、地域の皆さんと市とが一緒になって実行計画を策定していくという考えのもと行われます。

計画検討に必要な情報の提供や意見把握は、検討のステップに合わせ、順序だてて実施されます。地域の皆さんと市が、地域の公共施設に関連する課題やその対策についてひとつひとつ共有し、検討内容ごとに意見を反映させていきます。こうして、段階を踏みながら、協働して計画を検討することができるようになります。

各回のワークショップで何を議論し、何を決めるのかということ、参加者全員が理解していることが重要になるため、ワークショップのはじめには前のステップの確認を必ず行います。いくつかのステップにまたがるように、それぞれのワークショップは実施されます。



【WS】（ワークショップ）

ワークショップを通じて、意見集約、考え方の整理を行います。グループ討議における市民の方のご意見は広く共有していきます。

【NL】（ニュースレター）

紙面でプロジェクトの途中経過をお知らせしたり、情報提供を行います。皆さんの意見紹介や意見募集も併せて行います。

【OH】（オープンハウス）

市民の方々が集まる施設などでパネル展示を実施し、一連の取り組みを広報します。また、見学者からの意見もお聴きします。

地域の皆さんの意見を反映するために様々な機会が設けられています

潟東公共施設ワークショップでは、地域の皆さんと市とが協働し、相互に価値のある解決策を模索することを目指しています。このことを、地域の皆さんと共有しながら進めていくため、以上のように様々な機会を設け、多重多層なコミュニケーションを図り、ニーズなどを把握しています。

これらのコミュニケーションの機会を大いに活用し、潟東地域の将来についてご意見をお寄せください。

これからどうする？ 潟東の公共施設

第1回ワークショップのグループ討議から

◆検討の進め方についてのご意見

(1) ワークショップの進め方

- 全体のビジョンをまず考えた上で公共施設のあり方を考える必要がある。
- 数値だけに基いて市内を一律に考えるのではなく、この地域の歴史や背景などの地域性や住民の思いを理解した上で進めて欲しい。
- 小学校の跡地利用は住民の関心が高く、具体的なので意見も出しやすいと思うので、この場でしっかりと話し合いたい。
- 地域内の公共施設を取捨選択し結果として減らすことが目的ではないか。
- 代理の可否やグループ編成などを工夫し、思いのある人が参加しやすく、この場にいる人の多様な意見が聞ける様な進め方を検討して欲しい。

◆公共施設の課題についてのご意見

(1) 利用料金

- 体育館などは有料化されたために明らかに使われなくなった。
- 利用料金がかからない学校等の施設に人が流れているが、それもなくってしまったとしたらどうなるのか心配だ。
- 新しさや設備の充実度が違うのに同じ料金なのは納得できない。
- 施設が充実していたり、他施設と比べて安価であれば有料でも人が集まる。
- 市街地でも田舎でも、市内のどの地域でも料金が一律という考え方が違うのではないか。
- 学生が体育館を部活動で利用する時まで有料。柔軟に対応できないのか。

(2) 施設までのアクセス

- バス路線が無く、鉄道駅から遠く、車に乗れないとどこにも行けない。車に乗れない人が集まるにはどうするかを考える必要があるのではないか。
- 福祉施設や病院の送迎用のバスがあるが、時間が決まっていたり、高齢者しか乗れなかったりするので融通が利かない。
- 体育館などの施設には地区をまたいで行くことに抵抗はないが、一方で学校や集会所など地区内に欠かせない施設もある。

(3) 利用状況

- 一部に利用者の多い施設はあるものの、ほとんど利用者がいない施設も多くあり、施設はあっても有効に利用されていない。
- 施設の設備内容や利用料、申し込み方法などの情報が知られていなかったり、料金の支払いや手続きが面倒なために利用につながらないのではないか。

(4) 人口減少の問題

- 施設が無くなると地域が無くなってしまわないか。
- 人口が減少するから効率化を図る必要があるというのはわかるが、地域を活性化させて人口を増やすことも考えられるのではないか。

(2) 情報提供

- 各施設の築年、耐用年数、利用率、修繕に必要な費用など、話し合いのベースになるデータを提供してほしい。
- 市によって面積や人口密度、税金などの条件が異なるから、他都市との比較の際にはそれらを踏まえないと恣意的に感じる。公正なデータ提供をして欲しい。
- 行政側のビジョンや方針があるなら示して欲しい。小学校跡地については噂も出ているので、現状で知り得る情報や考えている方向性について教えて欲しい。

(3) 意見の反映

- 市としての着地点は決まっているのだが、形としてワークショップを開催し、住民意見を聞いたというアリバイ作りのための場でないかという懸念がある。
- このワークショップで検討された結果が今後の計画につながる様にして欲しい。参加者側も良い提案をし、話したことを無駄にしない様にして欲しい。
- 全ての意見が反映できるとは限らないとのことだが、都合が良い意見だけを採用せず、できない場合にはなぜできないかをきちんと回答して欲しい。
- 小学校の跡地利用について、住民の要望を反映させた検討をして欲しい。

(5) コストの問題

- お金がかかっても、利用者が少なくても必要な公共施設はある。農村部のコストが高いのなら、中心部で儲けてその分を充ててくれれば良いのではないか。
- 施設の老朽化が進んでおり、コストのことを考えると集約する等の対策を取るのにはやむを得ないと思う。
- 施設整備をする際には中途半端だと結局維持管理費がかかってしまう場合もあるので、品質を保てるだけの投資はする必要がある。
- 管理にはお金がかかるので、利用者が負担したり、メリット・デメリットを考えて直営か指定管理者かを選択して対応したら良い。

(6) 整備の方向性

- 必要な機能を整理した上で、利用率や利用価値が低い施設は他の施設でその機能を賄ったり複合化するのが良い。
- 施設を整理する際、民間への売却や貸し出しを行うことで、運営費や活動資金を捻出したり、雇用を生み出してはどうか。
- 地区外からも人が来る様な充実した施設を作り、地域の活性化につなげたい。
- 施設が長期間放置されることがない様に、まずあり方や方向性を決めてから統廃合して欲しい。
- ハードを維持しても利用する人が少なければ意味がないので、人に使ってもらうにはどうするかというソフトも考える必要がある。

◆公共施設に対する提案・要望

(1) 望まれる機能

- 地域活性化のための拠点として有効に活用できる様にしたい。
- 高齢者が集まって楽しめたり、子どもが雨天時などに遊べる施設がほしい。
- 施設の整備だけでなく、そこまでのアクセスのことも考えて欲しい。

(2) 既存施設の整備

- 改善センターは利用する団体も多く祭りにも利用できる施設なので耐震性などを整備して存続させたい。
- 体育館や生活体験館などの既存施設は、現状の使い勝手の悪さを見直したり、利用率を踏まえて他の施設と複合させることを検討してはどうか。

(3) 小学校の跡地利用

● 全体

- 小学校廃校後に施設をこれまで通り使い続けられるのか、維持管理はどうするのか、跡地はどうなるのかということが気になる。
- 施設は使用し続けたいと老朽化が進む。廃墟にならない様にしたい。
- 潟東中学校の敷地は駐車場もなく狭いので、小学校と併用するとなると敷地を広げなくてはならないのではないか。
- これまで小学校が担っていた避難所としての機能は残して欲しい。
- 高齢者や子どものための施設、子育て世代のための住宅など、住みやすさを向上させて若者を増やし、活性化につながる施設を整備できると良い。

● 潟東南小学校

- インターから近くて地の利があるので、高齢者の居場所など活性化につながるものを考えたい。
- 今の避難所としての機能は残したい。
- 潟東南小学校は中学校敷地へ移転するまでの間は利用されるが、将来的に跡地となるのだから今のうちから検討を始めておきたい。

● 潟東東小学校

- 洪水時には避難所としては使えないので、その際の避難所が必要。
- 今使用しているグラウンドや体育館をメンテナンスしながらこのまま使い続けられる様にしたい。
- 敷地の余裕があるので、子供が集まる場などに活用したい。
- 既に跡地の活用に関する噂がある。市の方向性を示して欲しい。
- 潟東ひまわりクラブが南側にあるが遠いので東小学校に同様の機能が欲しい。

● 潟東西小学校

- 隣接のサルビアサッカー場と一体的に整備して遠方からも人が集まる様にし、地域おこしにつなげたい。
- 市街地調整区域の縛りが外せれば土地利用の幅が広がり地域の発展につながる。
- 比較的新しい体育館はそのまま活用したい。

第2回ワークショップを開催

◇ 将来の方向性について活発な意見交換が行われました

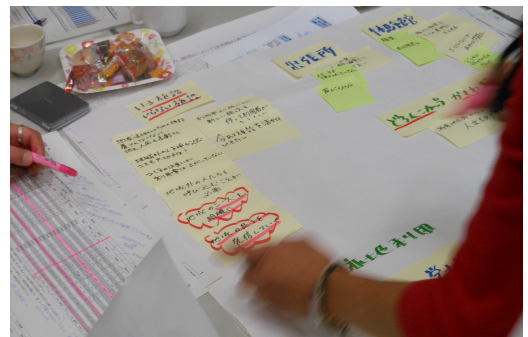
第1回に引き続き、第2回のワークショップが10月10日（土）に開催され、16名の参加がありました。ワークショップでは、今後の進め方や成果のとりまとめ方について確認するとともに、検討すべき課題については、次のようなものとしました。

- ・ 将来世代に負担を残さないための、施設の管理・利活用方法
- ・ 利用者視点での、施設の無駄のない効率的な利用方法
- ・ 廃校となる小学校など、役割の変化した施設の利活用方法

また、これらの課題が解決することにより、どのようなことが達成されるべきかについては、以下のようなものに集約されました。

- ・ 過度な財政負担が将来世代に残らない
- ・ 地域に必要な機能を維持する（高齢者、子育て、防災等）
- ・ 地域のまとまりや中心性を保つ地域が活性化（魅力が増す、雇用を生む、人口が増える等）
- ・ 地域間や世代間で、利用や負担の公平性やバランスがとれる
- ・ 施設が有効に利用され、無駄がなく、安全で地域のためになる
- ・ アクセスしやすく気軽に使える

これらを踏まえ、課題を解決していくための考え方の基本（コンセプト）について意見を交わしました。次回以降のワークショップでは、具体的な方策について議論を進めます。



第2回ワークショップの様子

オープンハウスのお知らせ

ワークショップの参加者のみならず、広く地域の皆さんからのご意見を収集する機会として、オープンハウスが開催されます。

オープンハウス会場では、市の財産経営の取り組みやワークショップでの議論の内容など、さまざまな情報をパネル展示します。会場では、担当者がご質問やご意見を承ります。

どうぞ、お気軽にお立ち寄りください。



開催日：11月 14日（土）
時 間：午前11時 ～ 午後3時
場 所：潟東ゆう学館 1階玄関ホール

この資料に関するお問い合わせ先

地域別実行計画コミュニケーション事務局
(新潟市財務部財産活用課内)

〒951-8131

新潟市中央区白山浦1丁目613番地69新潟市開発公社会館2階

TEL：025-226-2387 ホームページ <http://www.city.niigata.lg.jp/>